

愛知大学からの留学

愛知大学現代中国学部教授 山本一巳

愛知大学は建学の柱に国際的人材の育成を謳っている。そのため学生の海外留学については多様な留学制度や単位認定、奨学金などのサポートによってこれを積極的に奨励し、支援してきている。これによって毎年多くの学生が欧米・アジアなど各国に留学している。本学からの海外への留学は、大きく短期留学と長期留学に分けられる。短期留学は海外短期語学セミナー（以下海外セミナー）であり、長期留学には交換留学制度、認定留学制度、休学中の留学の三つがある。これに加えて現代中国学部では二年の春に全学生を対象に四か月間の中国への留学が正規のカリキュラムの中に組み込まれている。

海外セミナーは、語学力の向上とともに、各国の歴史や文化に触れ、国際的な視野と教養を高めること、さらに長期留学へのステップとすることなどを目的として、イギリス・アメリカ・オーストラリア・カナダ・中国・ドイツ・フランス・韓国等の八か国で夏休み・春休みを利用して約一か月間実施しているものである。

海外セミナーの国別の実施状況は次の通りである（表1）。まず英語圏についてみてみる。アメリカセミナーは、一九九三年春からサウスイーストミズーリ州立大学で二〇〇八年夏までに二一回実施され、参加学生は三八五名であった。イギリスセ

ミナーは、レディング大学で一九八八年春から二〇〇二年春まで二七回実施され、参加学生は一〇五三名、オックスフォード・ブルックス大学で二〇〇二年夏から二〇〇七年夏まで六回実施され、参加学生は一二二名、エクセター大学で二〇〇三年春から二〇〇九年春まで八回実施され、参加学生は二〇〇名、累計での参加学生は一三七五名であった。オーストラリアセミナー（春のみ）はモナツシュ大学で二〇〇五年から二〇〇九年まで四回実施され、参加学生は八四名であった。カナダセミナーは二〇一〇年春クイーンズ大学で初めて実施され、参加学生は二四名であった。英語圏での実施はグローバル化の進展や学生のニーズの多様化などに対応して対象国をこれまで拡大してきた。

非英語圏については次の通りである（表1）。中国セミナーは、一九八一年夏から二〇〇九年春まで南開大学で二六回、参加学生は六八五名、北京第二外国语学院で一八回、参加学生は四五三名、北京語言大学で七回、参加学生は七五名、累計での参加学生は一二三名であった。ドイツセミナー（夏のみ）はブレメン州立経済工科大学で一九九四年から二〇〇七年まで一四回実施され、参加学生は一六六名であった。フランスセミナー（春のみ）はオルレアン大学で一九九七年から二〇〇九年

まで一三回実施され、参加学生は二二三名であった。韓国セミナーは中央大学校で一九九七年夏から二〇〇八年春まで九回実施され、参加学生は一二九名であった。中国への参加者が多いのは、本学が一九〇一年に上海に設立された東亜同文書院の流れを汲んで中国との関係が重視されていることによるものである。

長期留学の第一の交換留学制度は、本学と海外の学術教育交流提携校との交流協定に基づき実施しているものである。選考のうえ選抜された学生は派遣先大学での学費が免除される（本学の学費は全額納入）。本学から交換留学奨励金が一学期につき一律二〇万円、二学期四〇万円を上限として給付される。留学先は、中国では南開大学、北京語言大学、復旦大学、北京第二外国语学院、上海外国語大学、中国国家教育部が推薦する大学、台湾では国立台湾師範大学、東呉大学、韓国では中央大学校、ドイツではブレーメン州立経済工科大学、タイではナレースワン大学、アメリカではサウスイーストミズーリ州立大学、ハワイ大学、トリード大学、フランスではオルレアン大学である。この制度を利用して留学した実績を二〇〇三年度から二〇〇九年度までみると次の通りである（表2）。二〇〇三年度は中国一名、台湾一名、韓国二名、アメリカ二名、フランス七名、タイ二名である。二〇〇四年度は中国一名、台湾四名、韓国二名、アメリカ四名、フランス三名、ドイツ三名、イギリス二名である。二〇〇五年度は中国一名、台湾四名、韓国三名、アメリカ二名、ドイツ四名、タイ二名である。二〇〇六年

度は中国二名、台湾四名、韓国二名、アメリカ二名、フランス二名、ドイツ三名、タイ一名、イギリス一名である。二〇〇七年度は中国一三名、台湾二名、アメリカ三名、フランス四名、ドイツ一名、タイ一名である。二〇〇八年度は中国一四名、台湾一名、韓国二名、アメリカ四名、フランス三名、ドイツ一名である。二〇〇九年度は中国一七名、台湾二名、韓国二名、アメリカ五名、フランス四名、ドイツ一名、タイ一名である。

長期留学の第二の認定留学制度は、学位の授与権を有する外国の大学の正規課程に留学を希望する学生が所定の手続きをし、教授会において許可されれば在籍のまま留学でき、単位も一年間に三〇単位を上限として認められる制度である。本学の経費と留学先の学費との双方を負担する必要があるが、留学先は提携校でも可能、希望者が指定する海外の大学への留学も条件次第で認められる。本学から認定留学奨励金が一学期につき一律五万円、二学期一〇万円を上限として給付される。認定留学もしくは休学留学を選択することができる大学としては、イギリスのパーミンガム大学（春学期から一年間）、イギリス・エクセター大学（春学期一セメスター）、カナダ・クイーンズ大学（春学期一セメスター）、アメリカ・サウスイーストミズーリ州立大学（秋学期一セメスター）、カナダ・クイーンズ大学（秋学期一セメスター）である。この制度を使って留学した学生は二〇〇七年度にエクセター大学春学期に二名、二〇〇八年度にはエクセター大学春学期に一名、サウスイーストミズーリ州立大学秋学期に一名、二〇〇九年度にはサウスイース

ストミズーリ州立大学秋学期に九名、クイーンズ大学春学期に一〇名となっている。

長期留学の第三の休学中の留学は、本学ではきわめて特異なもので現代中国学部集中してみられる事例である。現代中国学部の学生は最後に紹介するように全員がすでに四か月間の留学経験を有している。そのことが私費でも再度中国に長期滞在したいとの熱意に駆り立てることにつながっているといえる。二〇〇三年から二〇〇九年度までを交換留学との比較でみると次の通りである(表3)。二〇〇三年度は交換留学七名、休学留学三九名、二〇〇四年度は交換留学一六名、休学留学六五名、二〇〇五年度は交換留学一〇名、休学留学四一名、二〇〇六年度は交換留学一四名、休学留学七九名、二〇〇七年度は交換留学二五名、休学留学五三名、二〇〇八年度は交換留学一八名、休学留学三七名、二〇〇九年度は交換留学一七名、休学留学二六名となっている。現代中国学部の一学年の学生数は定員二〇〇名(うち留学生三〇名)であることを考えると、いかに多くの学生が中国に留学しているかがわかる。学生が長期留学に出かけるのは三・四年次であり、現代中国学部の長期留学比率は、(交換留学生十休学留学生)÷二学年学生数で求めることができる。それによれば一学年にして最も低い二〇〇三年度で一・七%、最も多いときは二〇〇六年度で二七・五%の日本人学生が主に中国に留学していることになる。これは日本の大学の一学部の中では正規にカリキュラムに組み込まれている事例を除けば極めて高い比率であるといえる。

最後に、現代中国学部の中国での四か月間の留学について簡単に触れておく。現代中国学部は一九九七年の設立時点から正規のカリキュラムの中に中国の四か月間の留学を現地主義の一環として実施してきている。これは東亜同文書院の学生による大旅行の経験を踏まえたものである。当初は一年次の秋に実施していたが二〇〇三年から二年次の春に変更して実施してきている。具体的には中国人留学生を除く全学生を天津の愛大会館に送り込み、語学の習得を中心に併せて中国の社会・文化等に習熟させ、将来日中交流に活躍できる有為な人材の育成を目指したものである。このプログラムは日本の大学の中では先陣を切ったものであり、各界から大いに注目され、その後いくつかの大学が類似のプログラムを実施するきっかけを作ることになった。このプログラムの学生に与えた副次効果は大きく、この現地での経験によって再度中国での長期留学を志し、高い語学力と現地体験を得た後に日中関連の企業に就職して活躍する学生を多く輩出している。

以上にみられるように、愛知大学からの海外留学は欧米・アジアを中心に幅広く展開されており、日本の大学の中でも際立った存在を示している。これはますますグローバル化する国際化時代に合致したものであると同時に国際的人材を養成するという建学の精神を実現するものともなっている。今後とも本学における留学制度の整備や拡充が一層求められていることは言を俟たない。

表1 愛知大学における海外短期語学セミナー実績

実施国	実施大学	実施期間	実施回数	参加学生
英語圏				
アメリカ	サウスイーストミズーリ州立大学	1993春-2008夏	21	385
イギリス	レディング大学	1988春-2002春	27	1,053
	オックスフォード・ブルックス大学	2002夏-2007夏	6	122
	エクセター大学	2003春-2009春	8	200
オーストラリア	モナッシュ大学	2005-2009(春のみ)	4	84
カナダ	クイーンズ大学	2010春	1	24
非英語圏				
中国	南開大学	1981夏-2009春	26	685
	北京第二外国語学院	1986夏-2006夏	18	453
	北京語言大学	1981夏-2002夏	7	75
ドイツ	ブレーメン州立経済工科大学	1994-2007(夏のみ)	14	166
フランス	オルレアン大学	1997-2009(春のみ)	13	223
韓国	中央大学校	1997夏-2008春	9	129

出所：愛知大学国際交流センター資料から作成。

表2 愛知大学における海外長期留学実績

年度	交換留学（1年）	認定留学 （1セメスター）
2003	中国11、台湾1、韓国2、アメリカ2、フランス7、タイ2（1名休学）	
2004	中国11、台湾4、韓国2、アメリカ4、フランス3、ドイツ3、イギリス2	
2005	中国11、台湾4、韓国3、アメリカ2、ドイツ4、タイ2	
2006	中国12、台湾4、韓国2、アメリカ2、フランス2、ドイツ3、タイ1、イギリス1	
2007	中国13、台湾2、アメリカ3、フランス4、ドイツ1、タイ1	エクセター春2
2008	中国14、台湾1、韓国2、アメリカ4、フランス3、ドイツ1	エクセター春1 シーモ秋11
2009	中国17、台湾2、韓国2、アメリカ5、フランス4、ドイツ1、タイ1	シーモ秋9 クーンズ春10

注：シーモ（SEMO）はサウスイーストミズーリ州立大学の略称。

出所：表1に同じ。

表3 愛知大学現代中国学部における長期留学実績

年 度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
交換留学人数	7	16	10	14	25	18	17
休学留学人数	39	65	41	79	52	37	26
3年次・4年次の日本人学生数	393	390	364	338	337	358	360
留学比率（%）	11.7	20.8	14.0	27.5	22.8	15.4	11.9

出所：愛知大学教学課資料から作成。